

令和2年度第1回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和2年6月11日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 パーティーギャラリーイヤタカ 2階 ポストンホールB
- 3 出席者 高田委員長、黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 管内の原木は、木質バイオマス用の引き合いはあるものの、合板工場をはじめとする大型木材加工施設では原木の入荷を制限しており、当面、この状況は続く見通しである。また、各工場の原木土場は飽和状態であり、原木の消費と供給のバランスが不均衡な状態である。以上の状況を踏まえ、国有林には、きめ細かな供給調整と市況に応じた機動的な対策を講じることとされたい。合わせて需要回復時の安定供給についても配慮が必要である。
- 5 主な意見
 - (1) 製材品は需要が落ち込んでいるため、原木在庫、製品在庫ともに増加しており、生産調整や原木の受入制限が行われている。そのため、製材用素材は引き合いが弱く、価格も弱含みで推移している。今後は虫害が心配されることから、一層厳しい状況になると予想される。
 - (2) 合板工場の減産や原木の入荷制限が続いていることから、合板用材はダブっており、一部はバイオマス向けに流れる動きもみられる。また、価格も地域や樹種によっては弱含んでいる。
 - (3) 低質材については、製紙工場では減産や原木の受入制限の動きがあるが、バイオマス用は引き続き、制限無く納入されており、在庫が増加傾向にある。
 - (4) 例年通り、夏場に向けて素材の生産量は減少傾向にあるが、山土場にはまだ販路を失った材が滞留しており、国や県による流通対策支援事業に期待する声がある。
 - (5) 能代港から中国への素材輸出は5月から再開されている。その他にも、国内需要の低迷や山土場での原木滞留を受けて、スギ原木を輸出しようとする動きがみられる。
 - (6) 現状ダブっている原木への対応は必要だが、供給調整を行う際には、需要回復後の国産材の安定供給体制が担保されるよう配慮することが必要である。